

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 3

272号

平成28年 3月 8日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

東日本大震災から5年

院長

3月11日、東日本大震災から5年目を迎えます。5年の歳月は、いい意味でも悪い意味でも区切りの時になります。

東日本大震災は何度と無く CLINIC NEWS で取り上げ、ブログ「こどもクリニック四方山話」、フェイスブックでも、震災の記録や問題を伝えてきました。昨年8月の第25回日本外来小児科学会で「東日本大震災を経験して-震災と復興-」ではメインのカテゴリーとして捉え、院内には「東北地方太平洋沖大地震を経験して」を掲示し続けています。

地震の当事者の私達は、一生3.11を忘れることはできません。ここのところ、マスコミでは東日本大震災の特集が生まれ、相も変わらず続いている問題の深さを再認識しています。最近の統計では、死者15,894人・行方不明者2,562人は計18,456人(2016年2月10日：警視庁)、それ以外に避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡、いわゆる震災関連死者は3,407人(2015年9月20日：復興庁)となっています。改めてなくなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。加えて、復興支援へのご協力、お心遣いを頂いた皆様へのご厚情に心より感謝申し上げます。

CLINIC NEWS2011年4月号の記事を引用し、当時を振り返ってみます。“3月11日(金)14:46 予防接種の最中に、突然の轟音(聞こえたような気が)と、とてつもない大きな揺れが。あまりの大きさに覚えてないけど、時間も長く、立ってられないほど。患者さんたちの大きな悲鳴も飛び交う状況。たまたまクリニックにいた4組の家族とともに、スタッフは抱きあいながら余震のなかで冷静に対応。被害の大きさが気になっていたけど、停電でテレビも見れず、もちろん携帯もつながらない。暗くなるに連れて、不安が大きくなり、家に帰れないと訴える家族も。少し落ち着いた時期を見計らい、2階の院長室へ。1階のクリニックよりもひどい揺れでメチャクチャ。スチール本棚が、イスにぶつかり壊れていた。もし自分がいたらと思うと。ご主人が迎えに来るとい患者さんを夜10時まで預かり、スタッフも病院で

3月のお知らせ

・栄養育児相談

2、23日(水) 13:30～

栄養士担当 参加無料

・午後休診

12日(土)

仙台市防災未来フォーラム参加のため



一夜を明かした…”。

地震を感じてから最大震度まで30秒もあり3分程度の大きな揺れが続きました。やっと地震の揺れが収まり、沿岸部に押し寄せてくる大津波を知らずに、院内にいた患者さんと笑顔で写真を撮ったことが思い出されます。情報が遮断された世界での断片的な情報は、まるで別の世界の出来事のような不思議な感覚でした。

その後、小児科医としての使命を果たすため、救護所出務、避難所巡回、情報発信、さらには診療所早期再開をめざし3日目に診療再開。その後Mail Newsなどで放射線等に関する情報を発信、国内外からの多数の激励や心配メールをもらいました。かかりつけ患者さんのありがたさとコミュニケーションの重要性を強く感じたものです。

東日本大震災から5年を迎えます。長かったような短かったような5年。時々訪れる被災地での復興に向けた取り組みに触れる以外に、周囲では震災を思い起こすものは無く、何もなかったような時間が流れています。がれきがなくなった被災地、かさ上げされた道路、復旧された施設、それだけ見ていると復興も進んでいるような気がします。しかしながら、物理的な復興が進んでいても、生活や心の問題を抱えている被災者には復興という言葉さえ届いていないのが現状です。更には、福島県では目には見えない放射能の影響等で、避難者は97,340人(平成28年3月)で、未来さえ見通せない状況です。

友人が来仙する時には、できる限り被災地に足を伸ばしてもらいます。遠目には何もないように見える風景にも、近付いてみる草に隠れたコンクリートの土台、そして子どもたちの笑い声がなくなった小学校、慰霊塔に供えられたおもちゃ、悲しみを宿した深い爪痕が残っています。海から吹いてくる風でさえ、悲しみと怒りをまとっているように感じられ、その場所は3.11からの時が止まったままです。被災地を訪れた時の写真です。絆のTシャツを着た人たちが指さす先には、きっと明るい未来が待っているのでしょう。

発災5年を経過し、復興のために何ができるか考えながら、新たな気持ちで取り組んでいきます。皆さんも、更なるご支援をよろしくお願いいたします。

何もできないという思いの人もいるでしょう。でも何もできなくても大丈夫です。被災地、被災者のことを考えるだけ、思うだけ、そして“忘れないこと”が復興支援なのです。そして5年目の節目となる、3月11日14:46には、黙祷を捧げて下さい。



『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は7通のメールをもらいましたが、プライバシーにかかわるものばかりでした。お母さんが子どもの頃かかりつけだった青葉区の渡辺さんからのメールです。“いつもお世話になっております。渡辺なの母です。(旧姓から文屋恵梨香です)。フェースブックシェア記事を拝見させていただきました。先々週金曜日から発熱、先週月曜日に先生のところでお薬ちゃん付き添いのもと診察をしていただき、白血球正常値、CRP0.5 とのことでお薬を処方いただいたものの熱が下がらず同日夜間診療に市立病院へ行き、経過観察と言われ次の火曜日様子を見ていたものの一向に熱が下がらず水分も取れず再度夜間診療へ行ったところCRP上昇7.0(市立病院測定マックス値)にて入院受け入れをしていただいた医療センターへ救搬し昨日まで入院しておりました。医療センターで検査をしていただいたところCRP値9.8とのごことでサーチレーション低下のため酸素吸入、様々な手厚い処置と安静加療の後症状安定し退院に至りました。インフルエンザ予防接種をしていて、また保育園で流行っていないからとの油断からいつもの発熱だと早期に異変を察することが出来なかった甘さを感じ辛い目に合わせてしまったと後悔しとても反省しています。先生の情報とても参考になります。色々な病気もあるんだと常に危機感を持ち今の生活を続けていきたいと思っております。以上近況のご報告まで。なるべく先生にお世話になる事のないよう自己管理(娘管理)をしていきます。”。初めての病気が入院だったと言うことは、とても大変だったことでしょう。様々なことを経験しながら、母親と子どもは一緒に成長していくものです。これからも、クリニックが発信する様々な情報を役立てて下さい。



クリニックでは、インターネット医療相談を20年近く継続しています。医療相談を始めた理由は、当院の開業理念「母親の不安・心配の解消」の全国展開でした。かなり早く開設したこともあり、当時は月150件を超えることも珍しくはありませんでした。その後大手サイトに匿名で相談できるようなコーナーができたため、相談数も極端に減ってきました。それでも匿名では対応できないような深刻な相談は、未だに後を絶ちません。たまたま2月に、海外在住者から投与された解熱剤への疑問、授乳中の飲酒による児への影響、中国製のビーズを誤飲の3件の相談が寄せられました。数回以上のやり取りで、何とか解決にたどり着くことができました。相談内容はブログ等で紹介予定ですが、身に余る感謝の言葉で綴られたメールをもらい、思いのほか役立っていることを実感しました。メールのほんの一部ですがご覧ください。

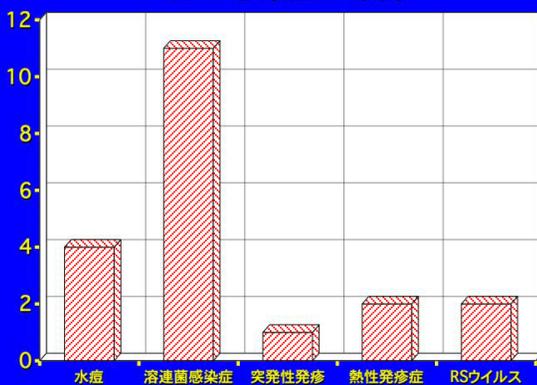
「丁寧なご返信どうもありがとうございます。診察に伺ったわけでもないのに沢山の質問をしまい申し訳ありません、先生のおっしゃる通りです。分かりづらい症状などの説明に丁寧にお返事を下さってとても感謝しています。一般論としてのご意見をいただき大変参考になり有り難いです、一般論というものを素人は中々知ることが出来ず、変な心配ばかりと悪循環になりがちで…。…先生、お忙しい中お返事どうもありがとうございました。とても有難かったです。色々な情報は読んだりして知っていたにも関わらず実際現場では何も言えずされるがままで、さすがに主人にもとても責められました。その通りなので何も言えず。ただただ、子供の命を危険にさらしてしまったという後悔で…。…しつかりしないとイケないです…」

「早速の詳しいお返事をありがとうございました。罵倒されるのを覚悟で相談しましたので、温かいお言葉に涙ができました。不安や後悔は消えませんが、愛情もって育てていきます。「…お忙しいのに、早速のお返事をありがとうございました。ありがたくて、何度も何度も読み返しました。心配と後悔に押し潰されそうで母親としての自信がゼロになった今は、先生のお返事だけが心の支えとなっています。後悔や罪悪感は消えそうにありませんが、私が普段通りに笑顔で接するのが一番大切なんですよ…」

「川村先生、とても詳しく、丁寧なご返信、本当にありがとうございます。ここまで詳しく、親切に対応してくれるところは今までありませんでした…」。「…うちの母も、ここまでしてくれる医師なんてまずいない。川村先生は日本一の医師だと言っておりましたが、私も同感です。…本当に親身になって、たくさんの貴重なご意見、また先生の愛に触れることは、枯れ果てた私の心にどれだけ大きな安心感をもたらしてくれたかわかりません…」(A4.3枚に及ぶ一部)

以前も書きましたが、重要なことは外部評価です。今までも多くの素晴らしい言葉をもらっていますが、一つ一つの言葉が理念の正しさを証明してくれています。ありがとうございます。またまた続けていかなければと意を新たにしています。

2月の感染症の集計



再び溶連菌感染症が増加しています。グラフには示していませんが、インフルエンザが2月に入り急増して宮城県では警報が発令されました。1月は僅か38人だったインフルエンザですが、1月末に宮城県で警報が発令され、2月は142人となりました。最初はAが主流でしたが、後半はBも増え、両方感染した人もいました。最近では横ばいか少し減少傾向です。感染性胃腸炎は相変わらず多い傾向が続いています。近隣の保育園と幼稚園で“ヒト・メタニューモウイルス”の集団発生がありました。興味がある人は、F.Bページをご覧ください。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebook ページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

医師にとっての外部評価は、患者さんからの“ありがとう”の言葉です。口から出て消えてしまうものより、いつまでも残る文章が余計にありがたいものです。言わなくていいこと、わざわざ書かなくても済むこと、それなのに伝えてくれる母親に巡り会えたこと、それは素晴らしいことです。たとえ診察しなくても、頼ってくれるのがかかりつけの患者さんなのでしょう。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！